

千里地理通信

関西大学地理学研究会会報 第72号

Newsletter of Geographical Institution, Kansai University

パナマ地峡を越える 野間晴雄

環大西洋をめぐる1年の在外研究に私は太平洋を4回見た。メキシコのアカプルコ、ロスモチス、パナマ市とロサンゼルスである。1日で両洋を見ることができたのがパナマ地峡だけだ。最狭部は70kmもない。1501年、カリブ海側に最初に到達したスペイン人はセビーリャ出身の探検家バステダスである。1513年にはバルボアがこの地峡探検を企て初めて太平洋に到達したが、掠奪の蛮行で死刑となる。翌年、総督としてアリアス・デ・アビラが派遣され、パナマ市を建設する。これが新大陸最初の太平洋側のコロニアル都市パナマ・ビエホである。この港町は1532年以降インカ帝国の金やポトシの銀を満載した船の積替地として栄える。

ミニ・シンガポールのような高層ビルが林立するパナマ新市街からバスで30分、遺跡公園に着く。前面はマングローブの浅海、城壁に囲まれたこの都市は、1621年の地震、1671年のイギリス海賊モルガンによる放火で壊滅、11km西のカスコ・ビエホ地区に移動し、以後パナマ史から忘れ去られる。2本の東西の大道とそれに交わる道路のなかに中央広場と石組の大聖堂遺構がある。隣接した30mの鐘楼がこの遺跡群のシンボルだ。遺跡公園は28万m²と広大で、新大陸コロニアル都市の原型だと思ふと感慨深い。ただ、基本モデルの規則的なグリッド区画はいまだ不完全である。金銀財宝がここで陸揚げされ、ジャングルと丘陵が続くバルボア地峡の王の道(Camino Real)でカリブ海側へ運ばれた。そのカリブ海側の港がポルトベロとノンブル・デ・ディオスだ。どちらにスペインからの船が着くかは風しだいだが、いずれもコロンビアの港カルタヘナを経由して来航した。

2014年7月2日、朝7時発の世界最短の大陸横断鉄道であるパナマ運河鉄道でコロムへ1時間、さらにそこからタクシーで50分、ポルトベロをめざす。コロンブスが最後の航海(1502年)でみつけた天然の良港で、町を囲む城壁はないが奥深い入江の先に要塞が建設された。150軒ほどの家屋と、旧

税関、教会、病院や奴隷収容所が残る静まりかえった町だ。17世紀にこのカリブ海に跋扈したオランダやイギリスの海賊を避けるため、スペインは小さな船に危険分散させた。復路はキューバのハバナに舵を取り、そこから地中海の諸港へ向かった。

衰退するスペインにかわって19世紀以降パナマで台頭したのがアメリカ合衆国である。1848年カリフォルニアのゴールドラッシュが始まると、メキシコ湾を南下、パナマ地峡を経て太平洋岸を北上するルートが脚光を浴びる。1855年には地峡横断鉄道がカリブ海側のコロムとパナマ市を結ぶ。アメリカは当時大コロンビアの辺境にすぎなかったパナマを操り、独立させた。地峡部を実効支配し、パナマ運河建設の先駆けとなる。ただ、運河建設を最初に請負ったのは、スエズ運河開削で名をなしたフランス人レセップスが指揮する運河会社であった。熱帯の猛烈な降雨と軟弱地盤、黄熱病・マリアの猖獗によって工事は難航をきわめ、会社は財政破綻した。その遺産を引き継ぎ、10年の歳月をかけ開通させたのもアメリカだ。それが100年前の1914年である。人口稠密なカリブ海のジャマイカやバルバドスの黒人家族は、運河工事の出稼ぎによるパナママネーで潤う。

運河の両側はアメリカによる管理が続いたが、1999年末にパナマに完全返還され、現在はパナマ運河庁(ACP)が管理している。運河はカリブ海側のガトゥン閘門、太平洋側がミゲル・ミラフローレスの2つの閘門を締め切り、順次水位を上げていく。その要諦は、カリブ海に注ぐチャグレス川上流を堰き止めたガトゥン人造湖(海拔26m)を経由し、掘削量を減らしたことである。閘門は既存の2レーンに加え、隣に第3のレーンを追加する工事が2007年に始まった。

Panamaxという合成英語は海運界の世界基準である。閘門を通過できる船舶の全長294.1m、全幅32.3m、喫水12mがその数値である。現在の閘門幅が33.5mだから、閘門を水路階段で昇降する船舶は、両側を特殊な機関車がワイヤーで牽引する離れ業である。新水路は2016年完成予定で、その暁には全長366m、全幅49m、喫水15mが新Panamaxとなる。現在の2倍の約6億トンの航行量を見込むが、工事の遅れが目についた。(本学教授)

Contents

Page 1

巻頭言
パナマ地峡を越える
野間晴雄

Page 2

卒業生だより
Mi segunda casa
El Salvador
私の第二のふるさと
エルサルバドル
石田夏樹

Page 3

学窓から
No fate but what
we make
運命など無い、
自ら切り拓くもの
井上拓大

Page 4

秋の日帰り巡検
今井・藤原京跡・
樺原神宮をめぐる
大西沙季

Page 5-6

研究ノート
千里ニュータウンの
住宅の再生と地域変貌
所 夏弥

Page 7

実習調査報告
鳥取市での実習調査
笠井祐太

Page 8

院生・学部生の業績
(2013.1~2014.12)

Page 8-9

教室だより

Page 10

随想
高校地理未履修問題
長谷正紀

Page 2-4, 7-9

2014年度
卒業生・修了生
からの一言



世界遺産パナマ・ビエホから新市街を遠望



ガトゥン湖を航行するコンテナ船



ガトゥン閘門での韓国籍コンテナ船の曳航

卒業生

相澤なつ乃
「とんでもない所に
来てしまった。」最初
に地理学専修に足を
踏み入れた時に思
いました。本当にと
んでもない所で、変
な人ばかりだし、
フィールドワークは
信じられないほど歩
くし、どうなること
かと思いました。で
も、楽しかったです。
心から感謝です。

赤田夕姫
地理学で過ごした2
年間は、私にとって
かけがえのない大切
な時間でした。良き
先生や良き友人にも
恵まれ、関わって下
さった周りの方々に
は感謝でいっぱい
です。

池内啓介
正直に言うともっと
積極的に勉強すれば
よかったと思うところ
はありますが、この
2年間は自分の人生
にとって本当に貴重
な期間になりました。

王毅日向
いろんな人と出会
い、多くの思い出が
できたのは地理学教
室の方々のおかげ
です。本当にありが
とうございました。

奥村早紀
地理学専修に来て、
本当に良い先生方と
仲間に恵まれました。
4年間ありがとうございました。

私は、2012年9月から2014年9月までの2年
間を、独立行政法人国際協力機構（JICA）が
派遣する青年海外協力隊として、エルサルバ
ドル共和国（以下「エ国」とする）でボラン
ティア活動を行ってきた。エ国…ほとんどの
人にとって馴染みのない国であると言える。

はじめに、エ国の国事情について触れてお
く。エ国は中米に位置しており、北西にグア
テマラ、北と東に国境をホンジュラスと接
している。Google検索で「エルサルバドル」
と入力すると、キーワードとして検索され
るのが治安に関する情報である。エ国には
、「マラス」と呼ばれるギャング集団が存
在し、「M18」と「MS」という二大勢力が
争いをしている。一般市民が犯罪に巻き
込まれることも少なくない。「エ国」の殺
人発生率は、世界で5本の指に入ると言わ
れている。この情報だけでは、なんと恐ろ
しい国だ…という印象しか与えることが
できないが、実際のエ国の人々は、とて
も穏和な性格で、陽気な人たちが多
い。

エ国での私の活動は「防災教育を普及
すること」であった。活動していたのは、
洪水・土砂崩れ・地震・津波などの災害
が発生するリスクの高い地域である。私
は、1995年に発生した、阪神・淡路大
震災を5歳の時に体験した。自身の震災
体験や、震災後に開発された、遊びを通
して防災を学ぶことができる教材「カ
エルキャラバン」を用い、防災教育普及
活動に努めた。教材の波及効果に感銘を
受けたエ国の同僚は、自ら教材を活用し
てイベントを実施したり、イベントの質
を向上させるために、前もって教材の
使用方法を復習するなど、同僚の姿勢
に変化が見られ、この時、「日本の防災
知識が、エ国でも共有されている」と
強く感じる事ができた。

振り返ってみると、2年間という月日は、
短い様でとても長い時間であった。エ
国の同僚と

約束をしても、当日に「夏樹と僕との間
には信頼関係がないのだから、僕は参加
しない。」と言われ、耳を疑ったことも
ある。しかしながら、腹立たしい気持
ちを癒してくれるのも、エ国の人たち
の優しい心遣いや言葉であった。長期
間現地の人たちの一員として生活をす
ることにより、物の考え方、世界観が
変わったと実感している。エ国での経
験は、何ものにも代えがたい財産であ
る。いつの日か、もう一度、ラテンの
空気を吸いに、エルサルバドルへ行
ってみたい。（いしだ・なつき：青年海外
協力隊OG、2012年卒業）

〔付記〕

石田夏樹さんは2015年3月23日から3
年間、再びエルサルバドルに赴任す
ることになった。その肩書は「在エル
サルバドル日本大使館、草の根・人間
の安全保障無償資金協力外部委嘱員」
としてである。



写真1 コミュニティでの防災カレンダー配布作業
(左から二番目が筆者)



写真2 小学校での防災授業の生徒たちと

学窓から

No fate but what we make
運命など無い、自ら切り拓くもの

井上 拓大

この2年間は、これまでの私の人生で最も充実しており、最も学問に打ち込むことができ、そして、最も平穩に過ごすことができた時期であった。しかし、この2年間は、あつという間であった。私は学生生活のなかで、「遊び楽しむこと」をほとんど経験したことがないので、もう少し学生生活を味わってみたいと考えて残りの日々を過ごしている。

私の大学院での研究主題は、大阪市の釜ヶ崎地域を事例とした「都市部の貧困」である。この研究は、学部時代に卒業論文を執筆するにあたり、大阪市西成区における野宿者の現状を調査したことに端を有している。一見すると日本という国は世界有数の先進国であり、経済が発展した国に見える。しかしながら、現実では貧困と格差が拡大しつづけている。日本国憲法第25条に明記されている「健康で文化的な最低限度の生活」が送れない人々が数多く存在している。日本政府は社会保障費削減の方針を掲げた。こうした実態は、メディアではほとんど報道されていない。大企業が利益を得ただけで、「景気が良くなった」と報道されているのが、現状である。また、現在の日本では、いわゆる自己責任論の考え方が浸透しており、先述したことのような現実の生じている問題に対しては、「当事者」の責任であるとされがちである。「なぜそうなったのか」という最も重要な部分には触れようともしない。

確実に「存在する」にも関わらず、社会では「存在しない」と扱われてしまうことが度々ある。そのような問題を根本から改善していかなければならないということを、この2年間で思い

知った。私の大学院生生活の目標は、何よりも「隠されている真実」を見抜くことができる力を、研究活動を通じて会得することであった。この2年間、全力を尽くして研究に取り組んだが、結局のところ、「真の苦しさ」を理解することはできなかった。修士論文の結論として提示した私なりの解決策も、中途半端なものとなってしまった。これが「当事者」ではない私の限界なのかもしれない。

地理学という学問は、非常に多様性を有している。原発の現状、最低賃金の格差をはじめとした地域格差、TPP参画による農業への影響、沖縄県の米軍基地と都市の関係、大阪都構想、地球温暖化、イスラム国（その背景や歴史、宗教観、文化や価値観）、これらはすべて地理学の範疇にあるともいえる。地理学を学べば学ぶほど、世の中が理解できるようになるのである。更には「隠された真実」を明らかにすることすら可能かもしれない。世に蔓延している「不条理」を発見できるかもしれない。現在の日本では学問、報道、表現の自由が奪われようとしている。国民の「知る権利」が無くなりつつあり、何もかもが「秘密」とされて隠されてしまいかねない。国家権力に従わなければならない世の中になろうとしているように感じる。これを食い止められるもの、それは「深い教養」と「真実」である。地理学を通して、世の中に関心を持ち、「不条理」に向き合える人間になってほしい。

綺麗事だからこそ、現実にするべきだ。本当は綺麗事が良いのだから。

(いのうえ・たくひろ：本学大学院博士課程前期課程2年次生)

久保美佳

地理学は個性豊かなメンバーと先生に出会えて、このゼミでしか味わえなかったであろう思い出がいっぱいです。今まで本当にありがとうございました。

後藤結美

大学生活、楽しかったです。特に巡検で行った北海道では、他の専修ではできないようなことを経験することができました。たくさん迷惑をかけてしまいましたが、地理学専修の先生方、4年間本当にありがとうございました。

酒井啓裕

地理学専修に入り、素敵な仲間に出会えて、沢山の楽しい思い出もでき、尊敬する先生方の元で学べ、悔いの無い大学生活を送れました。いままで関わってくれたすべての人たちに感謝の気持ちで一杯です。

下田省吾

幾度かの挫折があったものの、教員になりたいという大学入学当初の夢を叶えることができ、有意義な4年間であったように思う。社会に出ても夢を追い求めて日々精進したい。

下村実咲

大学生活の4年間は大変充実したものでした。地理学専修の仲間や先生方には大変お世話になりました。たくさん思い出ができました。この4年間の経験を糧にし、これからも精進したいと思えます。ありがとうございました！

『千里地理』への原稿の投稿のお願い

以下の原稿を募集しています。随時、研究室のメールアドレスにご投稿ください。図表などがある場合は、教室あてに郵送いただいても結構です。そこに原稿を電子媒体などに入れて同封していただいてもかまいません。

卒業されたOB・OGのかたで、近況やエッセーは「卒業生だより」にご投稿ください。また、現役の学生・大学院生は、「学窓から」にエッセーをお寄せください。分量はいずれも最大1ページ分で、半分分量でもかまいません。1ページの分量は最大で約1600~1800字です。2段組で1行は21字です。行間を調整することで柔軟に対応します。写真や図の挿入も可能です。かならず、写真や図のタイトルをお書きいただき、ファイルでお送りください。

また大学院生や卒業生による「研究ノート」の投稿も歓迎しております。これは研究の成果、中間的報告を、参考文献も付して論文スタイルで執筆するもので、2ページ完結の内容です。教員の編集委員で内容や形式のチェックをし、加筆修正頂く場合もあります。1ページの分量は約1600~1900字です。2段組で編集します。図表を原則いれて、いくつかの章にわけて執筆してください。

なお、いずれの欄も、末尾に、氏名の読み、卒業・修了年度、現在の所属をおかきください。締め切りは設けていませんが、春号は1月末、秋号は7月末が目処です。

私は北海道帯広市での実施調査が印象に残っています。帯広市のガーデニング・スポーツ観光について知ることができ、貴重な体験をさせていただきました。

菅沼 萌

地理学専修は他の専修に比べて巡検など活動が多く、大変なところもありましたが、その分楽しい思い出が残っています。先生方、同期のみんな、ありがとうございました。

高橋宏和

3年間にわたって地理学専修で過ごしてきた中で、地理学実習調査で北海道に行ったことが一番思い出に残っています。フィールドワーク調査がとても楽しかったです。

徳山未紗

地理学は個性的な人が多くて、とてもおもしろかったです。北海道の調査が一番印象深く心に残っています。みなさんありがとうございました。

土井千夏

地理学はゆったりした雰囲気、先生方や仲間は個性的な人が多く、とても楽しい日々でした。帯広市の実習調査は、一番の思い出です。本当にありがとうございました！

今回の秋の日帰り巡検で私たちは奈良県榎原市へ行きました。兵庫県出身の私にとって近鉄電車は初めてで、奈良県に行くのも小学校の修学旅行以来でした。昼食後に近鉄大和八木駅に集合しました。この駅にはカラオケ店や居酒屋やドーナツのチェーン店があり、駅のターミナルも整備されていて、都市化されている印象を受けました。10月末にもかかわらず、とても暑い日差しを浴びながら駅を後にし、近世の寺内町である今井町へ向かいました。今井町は天文年間(1532~1555)に石山本願寺の家衆である今井兵部によって四周に堀と土手を張り巡らした真宗の道場を核として形成された環濠都市で、町並みはとてもレトロで歩いていて退屈することがありませんでした。残念だったのが、途中寄った「今井まちなみ交流センター」でトイレに行っている間にみんながどこかに行ってしまう、今井町の歴史景観を十分と満喫することができなかったことです。

そのあと、タクシーに同乗して藤原京跡へ向かいました。とても広大な土地に発掘中の跡があり、古代のロマンを感じました。平坦な榎原市にある小高い大和三山(耳成山・畝傍山・香具山)の位置と藤原京の位置関係についてとて

も衝撃を受け、木庭先生の説明に聞き入ってしまいました。

藤原京を離れ、歩いて飛鳥川の河川争奪の場、神武天皇陵、最後に榎原神宮に行きました。神社の境内はとても広く、落ち着いた雰囲気を感じました。残念ながら、本殿を拝むことはできませんでしたが、神社のパワーをもらうことはできたと思います。配布資料を読むと、榎原神宮は明治23(1890)年に皇紀2500年として対外的な伝統誇示のため創建されたもので、このような神社はもっと歴史のあるものかと思っていたので、意外でした。巡検自体はここで解散しました。榎原神宮前駅までの道も参拝者向けにきれいに整備されていました。榎原神宮で結婚式を挙げるカップル向けのブライダルのお店もあり、出店されているお店もニーズに合ったものが多く見られました。

巡検が始まる前はとても元気だった私たちも終わってみるとグッタリ。帰りの電車の中では眠ってしまいました。地理学を専攻している者としてもう少し体力をつけるのも大事なのかなと考えさせられた巡検でもありました。参加者は教員3名、OBを含めて30名でした。

(おおにし・さき：本学2回生)



藤原宮跡での記念撮影(西田元気撮影)

千里ニュータウンの住宅の再生と地域変貌

所 夏弥

1. はじめに

千里ニュータウンは、1962年（昭和37年）の「まちびらき」から約50年が経過した。大都市圏の人口増加に伴う住宅不足を解消すべく、わずか10年足らずの短期間で大規模な開発が進められた千里ニュータウンは時の経過とともに変化し、1990年代以降には人口の高齢化や住宅の老朽化などが進むにつれて、住宅コミュニティの崩壊、高齢居住者の福祉問題、老朽化した住宅の建替問題など、多数の新たな問題がみられるようになった。今日の千里ニュータウンの問題は、わが国の高度経済成長期に建設された大都市圏の大規模ニュータウンに共通した「ニュータウンのオールドタウン化」をめぐる問題であり、それらの課題に対して千里ニュータウンがどのような政策・施策をとり、地域がどのように変化してきているのかは、多方面から注目されるようになってきている。本研究は、2007年10月の「千里ニュータウン再生指針」発表以降に焦点をあてて、住宅の建替、住宅・団地の再生とそれに伴う地域の変化について検討したものである。

2. ミックスディベロップメントと住宅形態の動向

千里ニュータウンの住宅開発の特徴は、需要の多様性に対応して複数タイプの住宅を供給するミックスディベロップメント方式を採用するとともに、通過住宅と想定された公共賃貸集合住宅の割合を高くしたところにある。それは当時の住宅事情からして、地方から3大都市圏へ多くの若者が移動してきたことによる青年層を中心とする住宅不足を解消すべく、若年家族層向け賃貸住宅の供給を重視した大量の住宅供給をめざしたニュータウン開発であったためである。その結果、開発当初の住宅形態別住宅戸数の比率は、公共賃貸住宅59%、分譲集合住宅11%、給与住宅等（社宅・寮）16%、戸建住宅14%であった。こうした割合は1990年代以降、給与住宅の廃止・売却による民間マンション開発や大阪府住宅開発公社および住宅都市整備公団（現UR都市機構）の分譲集合住宅の建替による民間分譲住宅（マンション）の増加によって、2005年には給与住宅の割合が7%に減少し、分譲集合住宅と民間集合住宅の合計割合で21%となったが、公共賃貸住宅や戸建住宅の割合にはあまり大きな変化はみられなかった（表1）。2000年代後半以降からスタートした公共賃貸住宅・団地の再生事業の進展によって、住宅形態は大きな変化をみて、地域が大きな変貌を遂げていくこととなる。

3. 千里ニュータウンの再生計画と住宅・団地再生事業の展開

1) 千里ニュータウンの再生計画・再生方針の策定

千里ニュータウンの再生計画・再生事業は2001年にニュータウンの運営に関わる6つの主体によって千里ニュータウン再生連絡協議会が設置されたことに始ま

る。そして、吹田市、豊中市では、各市の住宅地再生に関する検討委員会の発足・提言を経て、千里ニュータウン地区の「まちづくり指針」、「住環境保全に関する基本方針」の見直し・策定作業が進められ、住区別等の「地区計画」の策定などが行われた。また、ニュータウンの住宅開発・供給主体である大阪府、大阪府住宅供給公社、住宅・都市整備公団（現都市再生機構）も既存の公共住宅・団地の再生方針を明確化し、2007年には再生連絡協議会により「千里ニュータウン再生指針」（マスタープラン）が策定され、公共集合賃貸住宅を中心とした住宅・団地の再生が本格的に進められることとなった（表2）。

2) 公共住宅の再生と民間マンションの開発

ニュータウンで最も多く供給された公共集合住宅（中層耐火住宅）の再生（建替）は、主体によってその進捗状況や再生方式は相違するが、いずれも豊中市・吹田市の「地区計画」のもとに、民間活力の導入、事業コンペ方式による住宅・団地の再生といった形で進められてきている。いち早く再生事業を開始したのは大阪府住宅開発公社で、同公社の公共賃貸住宅は11団地3,360戸すべてを建替対象として、2005年の佐竹台、新千里西町を皮切りに急速なペースで進められ、その建替は2013年でほとんどが終了した。それらの再生は、賃貸住宅を高密度・高層住宅に建替えて、余剰地（再生地）の活用については民間による事業コンペによって進められている。戻り入居者向け賃貸住宅は、一般賃貸住宅および高齢者向け優良賃貸住宅をミックスして建設された。また、府営住宅の団地再生に関しては、民間事業者による府営住宅の建替と一部用地の譲渡による民間高層住宅の建設をセットにして、府営住宅の建替費用の一部を民間事業者への土地譲渡益で充当するPFI手法による建替が2007年の府営佐竹台住宅民活プロジェクトプロジェクトとして開始され、以降さらに3つの団地で同様の事業が進められてきている。これらの再生プロジェクトによる建替住宅は、一般住居のほか、高齢者向け改善住宅、車いす常用者向け住宅などの社会的弱者を対象とした住宅を多数含んでいる。以上の両者に対して、ニュータウン内に約9,000戸の賃貸住宅を保有するUR都市機構は中層6団地のすべてを団地再生・一部建替する方針であるとしているが、2014年末現在具体的な事業を着手するにいたらず、その再生は遅れている。

公共賃貸集合住宅の民活再生方式による住宅・団地の再生事業の進展や千里中央地区での複合型タワーマンション等の建設などによって、千里ニュータウンでは2000年代後半以降、民間マンション建設には目覚ましいものがあり、2007年以降から2014年の間で民間マンションの建設戸数は約4,000戸に及んでいる（筆者の調査による）。

4. ニュータウンの住宅再生に伴う地域の変貌

千里ニュータウンの人口は、1975年の12.9万人をピークに、その後一貫して人口減少が続き、1990年には10.9万人、2010年には8.9万人へと減少してきた。2011年以降人口は増加傾向を示すようになり、2014年には9.6万人となった。

住区別人口の動向をみると、1990～2000年間では人口増減率の地域的差異は大きくないが、分譲集合住宅の建替の影響がみられ始めた2000年と、賃貸集合住宅の再生事業の本格的な影響がみられるようになった2014年の14年間の人口増減率では、明瞭な地域差がみられる。いち早く住宅の再生事業が進展し、交通条件に優れた佐竹台、

表1 住宅形態別住宅戸数割合の推移 (%)

	1970年	1999年	2005年
賃貸集合住宅	58.9	58.9	58.0
分譲集合住宅	11.4	8.4	7.6
給与住宅	15.7	10.6	6.9
戸建住宅	14.4	14.7	14.5
民間集合住宅	—	7.4	13.0

*分譲集合住宅のうち建替済み戸数は同欄から除き、建替後の戸数を民間集合住宅に加える。

**吹田市・豊中市千里ニュータウン連絡協議会（2014）『千里ニュータウンの資料集』などにより、筆者作成。

表2 千里ニュータウンの住宅・団地の再生計画・再生事業の展開 (2001~2010年)

年	千里ニュータウン再生連絡協議会	大阪府	吹田市	豊中市	UR都市機構	大阪府住宅供給公社
2001	大阪府、豊中市、吹田市、UR都市機構、大阪府住宅供給公社、(財)千里センター(大阪タウン管理財団)で構成する協議会の設置		千里ニュータウンの再生を考える市民100人委員会の設置			
2002			市民100人委員会の「千里ニュータウン再生ビジョン」(提言)の公表	千里ニュータウン住宅地再生に向けた提言を公表		
2003		「千里中央地区再整備ビジョン」の発表	「吹田市千里ニュータウン再生ビジョン」を策定			
2004		千里中央地区:都市再生緊急整備地域指定	「千里ニュータウンまちづくり指針」の発表	千里ニュータウン地区の今後の土地利用の考え方をとりまとめ		
2005		(財)千里センター解散、大阪府タウン管理財団に事業移行	「住区別再生プラン」の策定(2005~2008)			11団地(25ha、3,360戸)の全面建替事業着手方針を公表、OPH千里佐竹公園の建替住宅入居開始
2006	千里ニュータウン再生のあり方検討委員会	千里中央地区再整備事業着工		「千里中央地区地区計画」の決定		
2007	「千里ニュータウン再生指針」の公表	大阪府営吹田佐竹台住宅民活プロジェクト(第1号)の実施	「千里南地区センター再整備事業基本計画」を策定		UR賃貸住宅ストック再生・再編方針を公表	OPH新千里東町・新千里西町・千里佐竹台の建替住宅入居開始
2008		大阪府営豊中新千里東住宅民活プロジェクトの実施				
2009		大阪府営吹田藤白台住宅民活プロジェクトの実施	「千里ニュータウン地区地区計画」・「千里ニュータウン再生行動計画」を決定			
2010		大阪府営吹田竹見台住宅民活プロジェクトの実施				OPH北千里青山台・北千里駅の建替住宅入居開始

千里ニュータウン再生連絡協議会の資料および大阪府、吹田市、豊中市、大阪府住宅供給公社、UR都市機構のHPなどにより、筆者作成。

表3 2000~2014年間の住区別人口・高齢化率の推移

住区	人口				高齢化率の推移(%)		
	1990年	2000年	2014年	2000~14年間の増減率	2000年	2014年	2000~14年間の変化
津雲台	10,116	9,214	8,770	-4.8	14.2	23.6	9.4
高野台	6,673	7,306	5,262	-28.0	21.5	37.4	15.9
佐竹台	6,551	6,721	8,594	27.9	19.8	25.8	6.0
桃山台	7,673	6,520	8,436	29.4	19.8	27.9	8.1
竹見台	10,655	8,733	7,072	-19.0	14.6	32.1	17.5
青山台	10,056	8,406	6,641	-21.0	20.3	35.5	15.2
藤白台	9,542	8,432	7,772	-7.8	19.7	31.8	12.1
古江台	10,654	9,345	9,613	2.9	23.5	30.7	7.2
新千里北町	9,558	8,133	6,961	-14.4	22.4	38.2	15.8
新千里東町	8,773	6,778	8,656	27.7	17.8	30.4	12.6
新千里西町	6,284	5,690	8,584	52.6	18.7	23.6	4.9
新千里南町	12,275	10,662	9,525	-10.7	17.7	33.7	16.0
千里NT(計)	108,813	95,941	95,886	-0.1	19.1	30.4	11.3

吹田市・豊中市千里ニュータウン連絡会議(2014)『千里ニュータウンの資料集』により、筆者作成。

桃山台、新千里東町、新千里西町では、20%以上の人口増加をみるとともに、1990年の人口を上回る住区も3住区ある。これらの住区では、民間マンション建設の進展によって、比較的若い世帯主の家族が増加し、各住区の小学校では児童数は漸増傾向にあるなど、人口の若返りが進み、高齢化の速度も鈍化してきている。

一方、UR都市機構や府営住宅の賃貸住宅のウエイトの高い住区では、空き家の入居募集停止の影響と転出増・自然減などによって、大きな人口減少をみており、住宅・団地の再生が相対的に遅れているなかで、高齢化の進展も著しいものといえるが、今後の住宅再生事業の進展によって、大きく変化することとなる住区といえる。しかしながら、建替が先行した住区とは異なり、高齢者の主要な受け皿となる可能性が高い住区であり、今後どのように再生が進められるかが注目されることとなる(表3)。

4. おわりに

千里ニュータウンの住宅・団地の再生は給与住宅と分譲集合住宅の建替が先行し、鉄道駅に近い比較的交通条件の良いところで民間マンションの開発が進展してきた。2010年代になると、千里ニュータウンの開発の中心であった公共賃貸集合住宅・団地の再生に焦点が移ってきている。これらの住宅・団地の再生においても、民活方式による住宅の建替と、高層民間マンションの開発とがセットになった事業として進められてきている。現在までのところ、千里ニュータウンでの住宅の再生事業は比

較的順調に進んできているようにもみえるが、それは千里ニュータウンの居住環境に対する高評価と一定の社会的ニーズに答えているところが大きい。民間マンションの売れ行きが好調であることによっている。また、建替が先行し民間マンションの開発が進んだ住区では、人口の若返り現象や高額民間マンションの建設による居住者の多様化などもみられてきている。

2000年代末以降、急速に進む公共賃貸集合住宅・団地の再生は、民間活力に依存した巨大かつ高密度な開発が実施されてきているが、ニュータウン全体としての目指すべき将来像や適切な住宅形態比率、各住区の特性と新たな生活施設配置、地域コミュニティの再生などの検討は十分とはいえず、それらの課題は喫緊の問題である。[付記] 本稿は2013年度関西大学大学院文学研究科(地理学専修)に提出した修士論文「千里ニュータウンの変容と再生事業に関する研究—住宅事業の観点から—」の一部を要約したものである

参考文献

- 大阪府・豊中市・吹田市・都市再生機構・大阪府住宅供給公社・大阪府タウン管理財団(2007)『千里ニュータウン再生指針』、千里ニュータウン再生連絡協議会、51頁。
- 住田昌二(1984)『日本のニュータウン開発 千里ニュータウンの地域計画学的研究』、都市文化社、355頁。
- 山本茂(2009)『ニュータウン再生 住環境マネジメントの課題と展望』、191頁。
- (ところ・なつみ:2013年度本学博士課程前期課程修了)。

実習調査報告

鳥取市での実習調査

笠井 祐太

2014年10月6日～10日の4泊5日で、地理学・地域環境学専修の実習調査が木庭・伊東先生と、ティーチングアシスタント（TA）の大学院生舟越寿尚さんの指導のもと、鳥取市で行われた。

自他共に見て認めておられる伊東先生が、前日の5日に先に現地に来ておられたおかげで、雨に降られることはなかった。5日の鳥取の天気は稀に見る超荒天であったという。

春学期の後半はさまざまな文献を検討し、地図・写真を閲覧した。それらの事前調査の先に実習調査があるはずだが、事前調査との食い違いもみられる。「なぜ」という疑問が尽きることなく湧きおこり、事前のモチベーションが落ちることはなかった。その一方で、事前調査と一致することがあると素直にうれしく感じた。

調査の内容は、鳥取砂丘の農業、鳥取砂丘の偏形樹、鳥取砂丘の観光、鳥取中心市街地の再生、鳥取市西郊千代水地区の都市的整備と地域の変貌の5班編成で、市内のホープスター鳥取に4泊して、そこから班ごとに調査にかけた。実習調査の締めくくりには伊東先生より、「まじめに調査を行ってくれた」とお褒めの言葉を頂いた。しかしわれわれがまじめに取り組めたのは、環境を整えて下さった先生方、TA、地元

住民、鳥取市役所職員のかたがたのご尽力があつてのことである。月並みな言葉であるが、われわれは今回敷かれたレールに乗せていただいたにすぎない。

今後卒論などで行われる調査はすべて自分の手で行わねばならず、すべて自己責任である。われわれ学生は今回の実習調査が自分の力だけで行われたものでないことを肝に銘じておく必要がある。鳥取に2回生のときに旅行経験のある私は、「どうせなら行ったことがない場所がよかった」と感じた。しかし5日間の実習を終え、旅行では知り得なかった鳥取の魅力に触れた今では、「鳥取でよかった」と強く感じている。

（かさい・ゆうた：本学3年生）



鳥取砂丘での偏形樹調査（木庭元晴提供）

中安 稜

ほくは地理学専修に入って色々なスキルを学び、それを仕事にいかせることがとても嬉しいです。ありがとうございます。

永島 明

本当に多くのことを学び、吸収させていただいた2年間でした。大学生活で得た、物事を多角的に捉えて考える力を活かし、これからも自分らしく頑張っていきます。

西田みづき

切に周りの方々に恵まれていると実感した4年間でした。個性溢れる素敵な先生方にも出会うことが出来、本当に感謝しております。

藤田美優

地理学教室での日々はとても充実したものでした。様々な場所に調査に行けたのは良い思い出です。ご指導ありがとうございました。

古川宏康

この4年間はあっという間に過ぎてしまいました。地理学専修に所属し、巡検で北海道に行ったことは今後一生忘れられない思い出です。みなさん本当にお世話になりました。ありがとうございました。

巻幡夏鈴

思い返してみれば、4年間、あっという間でした。地理学専修では、北海道や淡路島など色々な所へ行き、貴重な体験ができました。先生方、地理学のみなさん、お世話になりました。

2015年2月 刊行

鳥取市の地理 地理学実習報告書（39）2014年度

I. 地域の概観

第1部 鳥取砂丘

II. 鳥取観光砂丘の周辺施設と観光客通行調査

III. 福部町砂丘らっきょうの生産、加工、出荷

第2部 鳥取市街地

IV. 鳥取中心市街地における伝統的商業地区の変容と活性化

V. 鳥取市西郊千代水地区における都市整備の進展と地域の変貌

安宮まいこ

地理学専修に入って、多くのフィールドワークを通じてその土地に関して学びました。大変なことも多々ありましたが、とても充実した学生生活を送ることができました。

山本佳代子

最後の最後に入院してしまって色々ご迷惑おかけしましたが、お陰様で無事みんなと一緒に卒業出来てよかったです。ありがとうございました。

山本知佳

巡検や実習調査、授業のひとつひとつが楽しくて良い思い出になりました。4年間本当にありがとうございました。

周 颯昶

4年間の大学生活はあっという間ですね。たくさん地理好きな人と出会って本当に幸せでした。もう学生生活がこれで終わりって思えば、ちょっと寂しくなりますね。でも、ここからの道はさっともつとにぎやかでしょう。

大学院生

家村一平

2年間という短い間でしたがお世話になりました。特に去年7月の帯広での実習調査が一番印象深く、そして貴重な経験になりました。色々ご迷惑かけましたが2年間ありがとうございました。

院生・学部生の業績(2013.1~2014.12)

【論文】

齋藤鮎子 2013.「食と地域の対話—アジア食文化研究事始め—」,『月刊地球(総特集 野外の地理学と地域との対話)』通巻401号, 海洋出版, 108-114頁

野間晴雄, 松井幸一, 齋藤鮎子 2013.「『徐霞客遊記』の行程・観察日記のデータベース作成とその地図化—福建省歴史GIS構築のための基礎的検証(2)—」,『東アジア文化交渉研究』第6号, 461-475頁

張 旭 2014「清乾隆中(1750年)北京にみられる宗教建築の分布とその実態」,『千里地理通信』第70号, 4-5頁

【口頭発表】

王 遠航 2014.「華北地方における農村工業の発展と農民生活習慣の変化—山東省蒙陰県を事例にして—」, 関西大学史学・地理学会大会, 関西大学千里山キャンパス(2014年12月6日)

小泉邦彦 2014.「中学生にみる入学時からの地理意識の変化」, 全国地理教育学会第8回大会, 大阪商業大学(2014年10月19日)

齋藤鮎子 2014.「ベトナムハナム省の農村工業専門村における村落内外のネットワーク—ライスペーパーの生産を事例に—」, 2014年度人文地理学会大会(地理科学学会との共催), 広島大学(2014年11月9日)

齋藤鮎子 2014.「ハノイの農村工業専門村における村落内外のネットワーク—ライスペーパーの生産を事例に—」, 関西大学史学・地理学会大会, 関西大学千里山キャンパス(2014年12月6日)

齋藤鮎子 2014.「ベトナムにおける年中行事を中心とした祈りについて」, 関西大学東西学術研究所研究例会(比較信仰文化研究班), 関西大学児島惟謙館(2014年12月17日)

酒井礼央 2014.「近代日本における港湾整備と工業発展の相関について—明治期の大阪港を中心に—」, 関西大学史学・地理学会大会, 関西大学千里山キャンパス(2014年12月6日)

張 旭 2013.「東アジアに分布する古建築の装飾物の地域差とその形成」, 関西大学史学・地理学会大会(2013年12月7日)

※『千里地理通信』第70号(2014年3月)にこの欄の掲載がなかったため、今回に限り例外的に2年分を掲載しました。

教室だより

■M1・D中間発表会

2014年9月27日(土)13時から17時まで地理学・地域環境学学習室にて行われた。発表者は計6名で、博士課程前期課程から、酒井礼央、王遠航の2名、博士課程後期課程では張旭、張立宇、齋藤鮎子、舟越寿尚の4名であった。

■地理学・地域環境学実習の地域調査

2014年10月6日(月)から10日(金)にかけて、鳥取県鳥取市にて実習調査を行った。指導教員は木庭、伊東。TA1名、院生2名、3回生15名で実施。調査内容は、砂丘の観光および農業、中心市街地と周辺市街地など。2015年2月末日に調査報告書『鳥取市の地理』が刊行され、全国の地理学教室やお世話になった関係者・関係機関に発送された。

■秋の日帰り巡検

2014年10月26日(日)に秋の日帰り巡検が開

催された。「奈良盆地南縁に見られる天皇制嚆矢及び復古遺跡と地形」をテーマに下記コースをまわり、M1が中心となり要所にて説明を行った。コース:(集合)近鉄大和八木駅—大和八木駅周辺の都市化—今井町重要伝統的建造物群保存地区—<タクシーにて移動>—藤原京旧跡—飛鳥川河川争奪—神武天皇陵(解散)。各自、近鉄橿原神宮前駅より帰路へ。OB・OGからは松井幸一、松本太、東出修一の3名にご参加いただいた。教員3名、2回生・3回生・大学院生など、総勢30名での賑やかな巡検となった。

■第101回地理学研究会例会(地理学セミナー)

2014年12月13日(土)15時から18時まで第1学舎A301教室にて、地理学セミナー(研究例会)が開催された。M1により鳥取市での実習調査の中間報告がなされたのち、張立宇(関西大学

大学院 博士後期課程)「北京の都市構造における中軸線の歴史地理学的考察」、岡久友香(伊丹市立荒牧中学校教諭)「これから社会へ出るみなさんへ」、野間晴雄(関西大学教授)「環大西洋を漫遊して—在外研究で得たこと—」の発表および講演が行われた。例会終了後は学内のレストラン チルコロにて懇親会が開催され、現役生ならびにOB・OGからも多数の参加をいただき、親交を深める良い機会となった。

■教員の国外出張

野間晴雄：2013年9月24日～2014年9月23日
関西大学在外研究員として、スペイン・フランス・メキシコ・キューバ・パナマ・ジャマイカ・バルバドス・アメリカ合衆国などを訪問した。昨年9月24日から校務に復帰しています。

■新任非常勤講師紹介

水野浩先生にかわって秋学期(2014年9月)より、大橋健一先生(担当科目：測量学2、明

石工業専門学校名誉教授)にご出講いただいております。

■2015年2月16～17日に卒業論文の口頭試問が行われ、久保美佳さんの「岸和田旧城下町域の火災延焼評価」が専修の最優秀論文として、卒業式の日(2月18日)に学部長表彰をうけることに決定した。また、2月18日には修士論文の口頭試問が尚文館で実施されました。

■本年度の学部卒業生は25名、大学院博士前期課程の修了者は5名です。その題目は次号に掲載します。

■2015年4月より地理学・地域環境学教室のメールアドレスが変更となります。このメールアドレスは教室の公式ホームページには公表いたしていません。変更や近況報告、各種行事への参加申し込み、研究会への連絡やご質問などにご利用ください。

E-mail : kandaichiri@gmail.com

井上拓大

この2年間は、私の学生時代の中で最も充実した、そして最も穏やかに過ごすことができた時間でした。現在なら、胸を張って「大学で勉強した」と言うことができます。

王 大斌

この2年間で地理のことだけではなくほかの知識を吸収して本当に勉強になりました。地理室の先生の方と先輩たち、関大のことを永遠忘れずに頭の中に刻まれています。本当にありがとうございました。

方 立

私は2年前の3月に関大正門の前で、振袖を着ていた卒業生が集まって、賑わった様子を撮りました。2年間は本当に短くて、今は私がかうすぐ写真の中の人になる番です。この2年間で振り返ると、いつも皆様にお世話になりまして、本当にありがとうございました。

林 顕

授業も論文もあきらめない気持ちで最後の結果につながると思います。そしていつでも自分の気持ちに正直に行動すると、楽しくなんでもできると思います！頑張ってください！

高橋誠一先生を偲ぶ会を開催

2015年2月14日(土)14時30分から20時まで、新大阪の大阪ガーデンパレス(私学共済会館)にて、高橋誠一先生の一周忌に合わせて「高橋誠一先生を偲ぶ会」を開催いたしました。偲ぶ会(14時30分～17時30分)では高橋先生の経歴・研究業績紹介とそれに関わる講演と思い出などのスピーチが、偲ぶ夕べ(18時～20時)では会食と各方面からのスピーチやスライド等の上映などが行われました。関西大学の教員、卒業生だけでなく、奥様やお二人の娘さん、滋賀大学の教員や卒業生の方々、先生の友人・知人、小学校の恩師や同級生の方々など、約100名にご参加いただきました。また、当日、ゆかりの人68名が寄稿した思い出文集『冬の花火—高橋誠一先生の思い出と足跡—』を刊行しました。残部が若干ありますので、ご希望される方は送料込みで2000円を研究会に送金(郵便振替口座・通信欄に思い出文集送付希望の旨お書きください)いただければ、ご自宅に送付いたします。



高橋誠一先生を偲ぶ会夕べ(2015年2月14日)

随想

高校地理未履修問題

長谷 正紀

本学で地歴科教育法を担当して5年が過ぎた。受講生は高校地歴科教員免許取得を目的とする学生諸君で、講義では高校地理の教科書を使用して授業に必要な教材研究の仕方、教案の作成を経て可能な限り学生一人ずつが模擬授業をできるようにしている。毎年70~80名ほどの受講生があり、その7割が高校時代に地理は未履修である。彼らと話してみると高校の時に地理を履修しなかった理由は地理が苦手だからではなく、日本史との選択のために履修できなかった者も多いようで、地理未履修だから地理が嫌い、できないと結論づけられないと思う。そして彼らが私の授業を受講する目的の一つに、高校時代聞けなかった地理の授業を受けることにあるようだ。

1989年の学習指導要領第6次改訂で地理歴史科ができ、教科では世界史必修、日本史・地理が選択科目となった。以後、高校では地理履修者が減り、地理の学力が落ちると心配されるようになり、2005年には日本地理学会地理教育専門委員会がアンケート調査を行った。

その内容は、(1)高校の時に地理を履修したかどうかを聞く、(2)アメリカ合衆国など10か国の位置を白地図上の30ある番号から選ぶというもので、調査対象は25大学の3800人、9高校1000人であった。結果、イラクの正答率の低さが指摘され、高校での地理履修者は国の位置についての認知度が高く、未履修者の認知度は履修者より1割程度低くなっているとの結論を出された。当時、アンケート結果についてジャーナリストの筑紫哲也は、「国名や地名を知っているから地理ができるというなら知らない国があっても仕方ないのではないかと」反応している。

本学で2回(2010年、2014年)、このアンケートを実施したが、結果は当時の結果割合と殆ど変わらない。現在の学生はかつての調査に比べると高校で地理を履修していない割合が高いと考えられるから、調査結果が変わらなくなると国名とその国の位置を知るといことは高校で地理を履修したかどうかではないと考えるように

なった。

私も国名や地名を知っていることを地理ができるとは思わないが、地理を学ぶ際の基本は「地名(国名)と場所(位置)」であると考えている。そこで、授業で、どの程度世界の国々の位置を知っているかを問うために白地図に世界の国々の名前を記入させたことがある。すると高校で地理が未履修という学生も地理履修者と変わらないくらい世界の国々の位置を知っている。そして未履修者のうち2割の学生が世界の国々を殆ど網羅して書くことができる。聞くと中学1年生の時に先生が時間をかけて教えてくれたそうである。現在も中学社会地理的分野では最初の10頁にわたって「世界のすがた」を知るように記述されている。中学でこの範囲を丁寧に指導してくれる先生があれば高校で地理を履修しなくても国々の名前や位置はほぼ覚えているようである。先のアンケート結果の未履修者の認知度が履修者より1割程度低い結果にとどまっているのは、それを暗示しているのではないだろうか。

受講生を見ていると、高校地理を履修・未履修であろうと、地理の基本的な知識は習得していると考えている。だから私がこれから取り組むべきことは、中学校での社会科の授業が高校の地理の内容を薄く並べた授業ではなく、中学校地理的分野の学習の基本をどこに置くかを考え、高校の地理の学習にどの様に繋ぐかであろう。それが、中学で習った地理的・歴史的・公民的分野を何故、高校で再度覚えなければならないのかという生徒の間に答える事になるのではないだろうかと考えている。

(関西大学非常勤講師、元・近畿大学附属和歌山高等学校・中学校教頭)

千里地理通信 第72号

2015年3月20日 発行

関西大学地理学研究会

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35

関西大学文学部地理学・地域環境学教室内

編集担当：野間晴雄 舟越寿尚 酒井礼央

TEL：06-6368-1121 (内線4890：大学院生室)

E-mail：kandaichiri@gmail.com (新メールアドレス)

URL：http://www2.kansai-u.ac.jp/kugeoenv/

郵便振替：大阪00970-4-81149